

2019年度
5月

備前工場 リフレッシュ工事竣工

本年5月、当社の備前転炉工場においてリフレッシュ工事が竣工しました。備前工場は製鉄所で鉄の精錬に使用される「転炉」向けの耐火物の主力工場であり、今回の投資で生産能力の増強・生産性の向上を実現しています。

備前工場においては受注増加による生産能力の逼迫等が問題となっていました。今回建屋から新規で建設し、大型の新成形機の導入と各製造工程の最適配置を行った事で、老朽更新と同時に生産能力の向上と省力化も実現しました。

国内においては老朽設備のリフレッシュが課題となっていますが、省力化・自動化も合わせて計画的な更新を行い、国内耐火物事業の品質・収益性向上を行ってまいります。



新工場(左)と新倉庫(右下)の航空写真

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	毎年6月下旬開催
剰余金の配当の基準日	○期末配当実施の場合……3月31日 ○中間配当実施の場合……9月30日
単元株式数	100株
公告方法	電子公告により当社ホームページ (https://www.krosaki.co.jp/)に掲載いたします。 ただし、やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載いたします。
上場金融商品取引所	東京(第一部)・福岡
株主名簿管理人	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社
株主名簿管理人 事務取扱場所	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
郵便物送付先	〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
照会先	☎0120-782-031 受付時間/土・日・祝日を除く 9:00~17:00 インターネットホームページURL https://www.smtb.jp/personal/agency/

■株式に関する住所変更等のお届出及びご照会について

証券会社に口座を開設されている株主様は、住所変更等のお届出およびご照会は、口座のある証券会社宛にお願いいたします。証券会社に口座を開設されていない株主様は、下記のお問合せ先にご連絡ください。

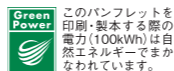
■特別口座について

株券電子化前に「ほふり」(株式会社証券保管振替機構)を利用されていなかった株主様には、日本証券代行株式会社に口座(特別口座といえます。)を開設しています。

お問合せ先 **☎0120-707-843**
(受付時間/土・日・祝日・年末年始を除く9:00~17:00)

黒崎播磨株式会社 (証券コード:5352)
〒806-8586 北九州市八幡西区東浜町1番1号

URL:<https://www.krosaki.co.jp/>
TEL.093-622-7224
FAX.093-622-7200



株主のみなさまへ

第129期 第2四半期のご報告

2019年4月1日から2019年9月30日まで

ごあいさつ

代表取締役社長

江川 和宏



株主のみなさまには、平素より格別のご高配を賜り厚くお礼申し上げます。

当社グループを取り巻く事業環境は、世界経済の減速影響を受け国内の粗鋼生産量が減少したこと、ファーネス事業における大型工事案件の端境期であったこと、セラミックス事業部の主要顧客である電子部品業界の在庫調整等の影響により、厳しい事業環境となりました。この逆風の影響を最小限にとどめるとともに、来期以降再び成長を続けられるよう、各種施策を積極的に実行して参ります。

耐火物事業の主要顧客である鉄鋼業界は世界的には成長が続いており、鉄鋼生産に伴って消費される耐火物の需要も今後ますます増加していくものと見込まれています。特に当社が現在海外事業の中核として経営を行っているインドにおいては、需要の増加に対応するための能力増強投資を積極的に実行し、更なる業績拡大を目指します。

ファーネス事業においては、引き続きコークス炉等の大型工事案件に着実に対応するとともに、鉄鋼業のみならず、金属精錬産業・セメント産業等での更なる受注拡大や、環境に優しい発電ボイラ・焼却炉等の環境案件へも着実に事業展開してまいります。

セラミックス事業においては、主力である半導体・セラミックコンデンサ向け製品の需要は回復基調にあり、中長期的な成長も見込まれます。今後も環境の変化を的確に捕捉した事業展開を進めてまいります。

株主の皆さまにおかれましては、今後さらなるご支援、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

2019年度
上期

インドTRL社の 能力増強

当社のインド子会社TRLにおいて、ドロマイト煉瓦製造能力の能力増強投資が行われています。ドロマイト煉瓦はTRLがインドにおいてトップシェアを誇る主力製品であり、今回の能力増強により生産能力は従来比4割増となる見込みです。

インドは過去10年以上一貫して鉄鋼業が成長しており、世界経済が減速基調にあった今年も1~9月累計の粗鋼生産量は前年同期比3.5%増の8,418万トンに拡大しています。更にTRLはインド国内でも100社以上、海外ではアジアはもちろん中近東・欧州・南米等にも販売先を広げており生産能力の増強が急務となっています。

今年度完工する予定のドロマイト煉瓦製造能力増強投資に加え、2020年度には塩基性煉瓦工場・マッド工場などの能力向上も完了する予定であり、TRLの更なる業績拡大を実現します。



ドロマイト工場新成形機。
新焼成窯も今年度稼働予定



マッド工場建屋建設の様子

売上高 **708.3** 億円

売上高

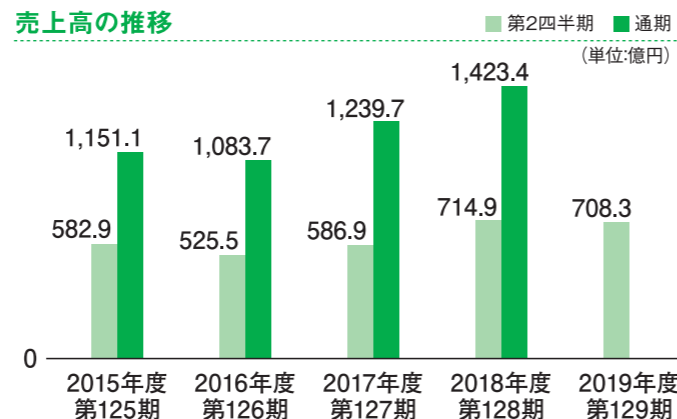
当社グループの主要得意先である鉄鋼業界の国内粗鋼生産量は、前年同期に比べ3.0%減の5,067万トンとなりました。海外売上高の増加はあったものの、ファーンレス事業での大型案件の端境期に伴う受注減などにより、売上高は、前年同期に比べ0.9%減の708億39百万円となりました。

営業利益 **48.8** 億円
 経常利益 **49.2** 億円
 親会社株主に帰属する四半期純利益 **31.6** 億円

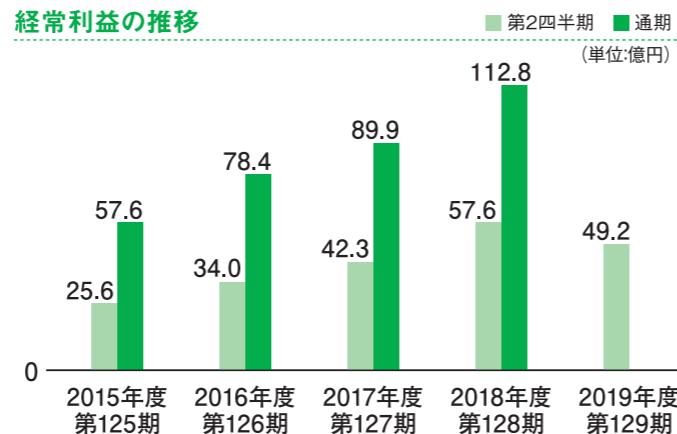
利益

売上高の減少等により、営業利益は、前年同期に比べ10.1%減益の48億89百万円、経常利益は、前年同期に比べ14.7%減益の49億23百万円となりました。また、親会社株主に帰属する四半期純利益は、前年同期に比べ13.3%減益の31億66百万円となりました。

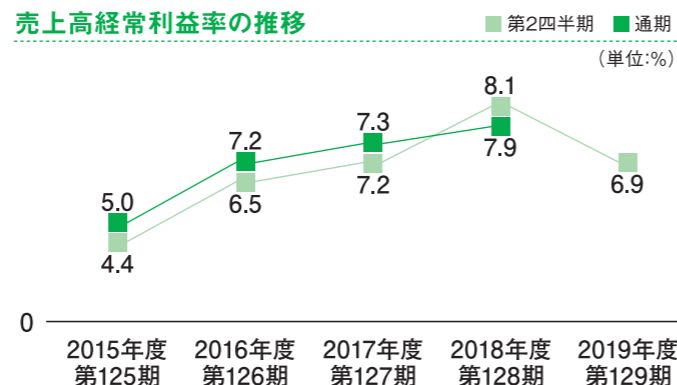
売上高の推移



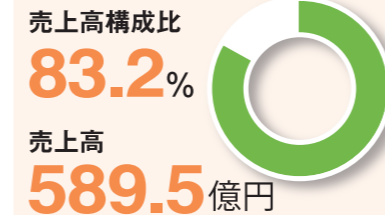
経常利益の推移



売上高経常利益率の推移



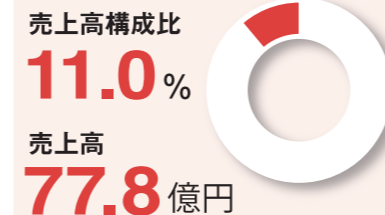
耐火物事業



海外子会社の売上増加、コストダウン等により増収増益

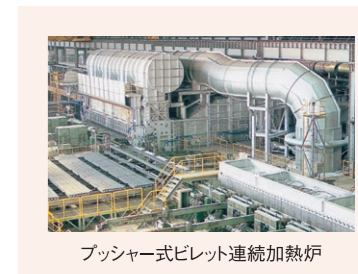
海外子会社の売上増加等により、売上高は前年同期に比べ1.0%増収の589億56百万円となりました。円高の進行およびコストダウンの進展等により、セグメント利益は、前年同期に比べ9.8%増益の36億67百万円となりました。

ファーンレス事業

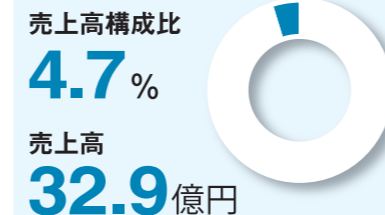


大型工事案件の受注減等により減収減益

大型工事案件の端境期による受注減等により、売上高は、前年同期に比べ10.3%減収の77億88百万円、セグメント利益は、前年同期に比べ56.0%減益の4億56百万円となりました。

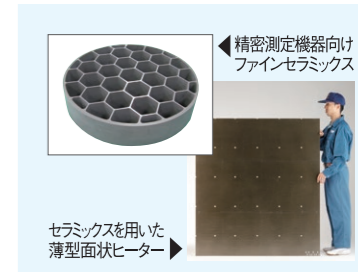


セラミックス事業

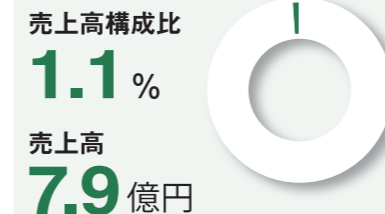


主力ユーザーの市場環境の悪化により減収減益

売上高は、主力ユーザーである半導体製造装置業界及び電子部品業界からの需要が減少した事等により、前年同期に比べ8.8%減収の32億99百万円、セグメント利益は、前年同期に比べ38.7%減益の3億79百万円となりました。



不動産事業、その他の事業



【不動産事業】

売上高は、前年同期に比べ9.5%減収の4億15百万円、セグメント利益は、前年同期に比べ5.3%減益の3億56百万円となりました。

【その他の事業(製鉄所向け石灰の製造販売)】

売上高は、前年同期に比べ9.5%減収の3億79百万円、セグメント損益は、19百万円のセグメント損失(前年同期は0百万円のセグメント損失)となりました。

